

さいたま市長定例記者会見

平成31年4月26日（金曜日）

午後1時30分開会

○ 進 行 定刻となりましたので、市長定例記者会見を始めさせていただきます。
それでは、記者クラブ幹事社の共同通信社さん、進行をよろしく願い
いたします。

○ 共同通信 4月の幹事社を務めます共同通信と申します。よろしく申し上げます。
それでは、本日の記者会見内容につきまして、市長から説明をお願いします
ます。

○ 市 長 皆さん、こんにちは。
このところ、映画や住みたい街ランキングなどでさいたま市の話題が多
くなっていると感じておりますが、先週は本市の強みでもあります教育の
分野でうれしい調査結果が公表されました。文部科学省の英語教育実施状
況調査で、特に中学3年生の英語力が全国でトップクラスの結果であった
ということです。グローバル・スタディや授業時間数の見直しなどの、さ
いたま市独自の取り組みが成果としてあらわれてきたものと思います。

また、明日から始まる大型連休中には、毎年多くの方々に参加をしてい
ただいております大盆栽まつりや花と緑の祭典、アグリフェスタなどが開
催されます。遠出をしなくても、地元で楽しめるイベントが市内各地で開
催されますので、取材のほうもお願いしたいと思います。また、プライベ
ートでもご参加をいただければと思います。ぜひさいたま市を満喫してく
ださい。

それでは、平成最後の記者会見となりますが、議題の説明に移らせてい
ただきます。

議題1：さいたまスポーツフェスティバル2019を 開催します！

議題1、さいたまスポーツフェスティバル2019の開催について説明
をさせていただきます。

既に皆様ご存じと思いますが、さいたま市では東京2020オリ
ンピック競技大会において緑区美園にあります埼玉スタジアム2002と

中央区さいたま新都心にありますさいたまスーパーアリーナでそれぞれサッカーとバスケットボールの競技が開催されることになっております。

本市のサッカーは、100年を超える歴史を有し、Jリーグ2チームを有するホームタウンとなっており、「サッカーのまち」としての文化が根づいております。また、本市はスポーツ少年団のサッカーとミニバスケットボールの登録者数が全国トップクラスであり、多くの子供たちがサッカーやバスケットボール競技にかかわっているため、本市が東京2020オリンピック競技大会で、サッカーとバスケットボールの競技会場になっていることは大変喜ばしいことであると誇りに感じているところです。

さらに、さいたまスーパーアリーナで男女とも全試合が行われますバスケットボール競技については、先日男女ともに日本代表の開催国枠が決定し、ますます東京2020オリンピック競技大会に向けて盛り上がっているとところでもございます。

まずは、昨年度に実施した東京2020オリンピック競技大会の会場周辺での気運醸成に向けたイベントの実施状況についてご説明をしたいと思います。

まず、サッカー競技会場であります埼玉スタジアム2002周辺でのイベントが昨年10月6日から8日の3日間にわたってイオンモール浦和美園で行われました。内容につきましては、オリンピック・パラリンピック競技種目を中心としたスポーツ体験とブラインドサッカー日本代表強化指定選手の加藤健人選手などによりトークショーなどを実施しました。また、東京2020マスコットが初めて埼玉県を訪れたところでもございます。3日間で約6,400人の方々が来場し、大いににぎわったところでもございます。

次に、バスケットボール競技会場でありますさいたまスーパーアリーナ周辺でも今年の3月16日に東京2020オリンピック競技大会まで500日前となる時期に、「コクーンシティ コクーンひろば」などでイベントを実施させていただきました。(イベントの内容は、)バスケットボールのフリースロー体験、ブラインドサッカー、ボッチャのパラリンピック競技体験、オリンピック・パラリンピックの入賞メダル・記念貨幣の展示など。また500日前イベントの一環として、オリンピックでありますヨ

ーコ・ゼッターランド氏の特別講演も実施をさせていただいたところです。

特に入賞メダル等の展示につきましては、造幣局さいたま支局のご協力により実施することができました。普段は造幣さいたま博物館でしか見ることができない入賞メダルや博物館でも見ることのできない長野パラリンピックの入賞メダルを展示させていただきました。約2,400人が来場し、家族連れなど多くの方々に楽しんでいただきました。

それでは、今回皆様にご案内するさいたまスポーツフェスティバル2019の概要についてご説明をしたいと思います。

いよいよ東京2020大会まで残すところ約1年となりました。大会に向けてさらなる気運醸成を図るために今年もこのイベントを実施します。また、障害の有無にかかわらずスポーツを楽しめる場を提供し、さまざまなスポーツ体験を通じまして、「スポーツのまち さいたま」としての魅力を広く来場者に対して発信することを目的としております。

さいたまスポーツフェスティバルの開催は、今年で5回目になります。開催日ではありますが、5月の大型連休明けの5月11日、12日の2日間にわたって開催します。会場は、これまでの開催と同様にさいたまスーパーアリーナで行います。

次に、主な特徴についてご説明をさせていただきます。さいたまスポーツフェスティバル2019の特徴は、大きくは4つございます。1つ目は、前回よりもアトラクションの数を増やしたことです。2つ目としては、東京2020大会まで残すところ約1年となることから、オリンピック競技体験を充実させたことです。そして、3つ目の特徴としては、オリンピックなどのアスリート等によるスポーツ教室・トークショーの実施でございます。そして4つ目が、スポーツが苦手な方でも楽しめるコンテンツもご用意をしていることでございます。

まず、1つ目のアトラクションの数を増やしたことについて説明をします。来場者にさまざまなスポーツ体験等してもらうためにアトラクションの数を前回の33アトラクションから今年は45アトラクションに増加をさせました。増加した主なアトラクションは、デュエルサッカーやスポーツスタッキングなどがございます。

デュエルサッカーとは、直径8メートルの鉄製ゲージの中でドリブルや

足技のスキルやひらめきを生かし、相手と1対1で競い合うストリートスポーツです。誰でも参加できるシンプルでエキサイティングな新しいサッカーのアトラクションでございます。

また、スポーツスタッキングとは、12個のカップを積んで崩していく、そのスピードを競うスポーツです。世界大会も既に開催されています。体力的な負担が軽く、危険が少ないため、小さなお子様から高齢者の方々まで楽しめるスポーツです。

また、ステージイベントとして、スポーツスタッキングの小学生日本代表がデモンストレーションを行う予定です。ぜひ見に来ていただきたいと思います。また、その他のアトラクションの詳細については、お手元にありますチラシを参照していただきたいと思います。

続きまして、2つ目の特徴でありますオリンピック競技体験の充実でございます。これは、オリンピック競技種目を前回の11競技から15競技に増加させました。増加した競技については、卓球、トランポリン、バレーボール、野球、BMX（バイシクルモトクロス）でございます。それらの競技体験を追加しております。

卓球については、2018年にTリーグが開幕しました。オリンピック競技大会に向けてますます盛り上がってきているところであります。今回は、埼玉県をホームタウンとしております「T. T彩たま」にご協力をいただいて実施をすることになっております。また、BMXについては、東京2020大会から初めて正式にオリンピック競技種目として選ばれ、とても注目をされています。

続きまして、特徴の3、アスリート等によるスポーツ教室・トークショーについてです。来場者にオリンピックなどのアスリートから直接指導を受けたり、また身近に接してもらうことで、競技の楽しさや奥深さを体験し、よりスポーツを好きになってもらいたいという思いで実施をいたします。

主なスポーツ教室についてご紹介いたしますと、バルセロナオリンピックに出場経験がございます大竹秀之氏によるバレーボール教室、さいたま市をホームタウンとしております女子フットサルチーム「さいたまSAICOLORO（サイコロ）」の現役選手によるフットサル教室、また主なトーク

ショーについてですが、オリンピックとしてバレーボール教室に続き大竹秀之氏やK-1のカリスマ的存在でもあります武尊選手など、多数のアスリートに会場してもらおう予定となっております。トークショーの内容については、東京2020大会に関するテーマを中心に行う予定です。また、ステージイベントでは、トークショーのほかにプロフリースタイルフットボーラーによるパフォーマンスも実施します。

最後に、特徴の4番目ですが、スポーツが苦手な方でも楽しめるコンテンツの提供でございます。主なアトラクションとしては、「HADO（ハド一）」と「スポフェス謎解き」を行います。新規のアトラクションであるHADOとは、AR技術、こちらが（イメージ図）ですけれども、AR技術を使った世界中で話題の新感覚スポーツです。頭にヘッドマウントディスプレイと腕にアームセンサーを装着して、体を動かすことで技を出してプレーするものです。3対3の団体戦で行うため、家族や友達とも一緒に楽しめます。

前回好評でありましたスポフェス謎解きについても、今年も実施します。会場内に隠されているヒントを手がかりに、知力と体力を駆使した謎解きを行っていただきます。他のアトラクションの待ち時間なども利用して楽しめるように工夫しております。家族や友達と、またみんなで協力しながら、ぜひ挑戦してほしいと思います。

5月10日には、報道関係者などを招待した内覧会を実施します。詳細につきましては、お手元にある資料をご確認ください。多くのオリンピック・パラリンピック競技が体験できますさいたまスポーツフェスティバルに今年も多くの方々の、特にお子さんに参加してもらい、楽しんでいただきたいと考えております。今年もさいたま市一丸となって東京2020大会に向けて準備を進めてまいりたいと思います。

私からは以上でございます。

○ 共同通信

ありがとうございます。

市長からの説明について、質問のある方はお願いします。特にないようでしたら、次に進みたいと思います。

幹事社質問：GW（10連休）を控えて

①行政窓口など、10連休中の臨時態勢について

②市長の公的・私的な予定について

それでは、幹事社として代表質問をさせていただきます。質問はまとめて行いますので、よろしくお願いします。

10連休を控えて2点質問させていただきます。1点目は、行政窓口や市立病院など、10連休中の臨時態勢について代表的なところを教えてください。2点目は、市長の公的・私的な予定を教えてください。よろしくお願いします。

○ 市 長

まず、1点目です。行政窓口、市立病院など10連休中の臨時態勢について、代表的なところについてお答えをしたいと思います。

まず、行政窓口についてでございます。基本的には、年末年始と同様の対応となります。ただし、通常毎月最終日曜日に区役所窓口を一部開設していることから、10連休中の4月28日日曜日には10区役所を開庁します。開設窓口は、区民課、課税課、保険年金課、支援課となっております。

次に、市立病院についてでございますが、臨時的に4月30日火曜日及び5月2日木曜日を開院します。開院日の午前中は、一部休診の科を除きまして通常外来を、午後は専門外来を中心に行います。また、救急医療体制に関しても、10日間通常どおりの医療体制を組み、対応してまいります。

続いて、地域医療提供体制ですが、本市には4カ所、浦和、大宮、与野、岩槻、この4カ所の休日急患診療所がございますので、10連休中の日曜日や祝休日についても実施をします。また、在宅当番医につきましても各医師会と連携をとりながら実施をしてまいります。

周知についてでございますが、市報5月号に連休中の市役所業務に関する記事を掲載します。具体的には、市立病院の開院、区役所の業務のうち戸籍の届出や住民票などの各種証明書の交付、ごみの収集、持ち込みについて掲載する予定でございます。また、ホームページにつきましては、4月から5月の大型連休における全庁的な対応について、医療、そして市役所、区役所の窓口、図書館や博物館、文化コミュニティ施設の開館状況などの

カテゴリーに分類して、総合的に取りまとめた記事へのリンクをトップページに掲載しております。また、SNSなどの投稿からホームページに誘導して、詳細な情報を提供してまいりたいと考えております。

次に、危機管理体制についてでございますが、全庁に危機発生時の危機管理体制や職員動員体制の確保及び関係機関の連絡先や連絡手段について改めて確認するよう周知を行いました。自然災害などをはじめとするさまざまな危機事案に対しては、迅速に対応できるよう職員による24時間体制を構築しております。いずれにしましても、市民の皆様が安心安全に大型連休を過ごせるよう万全な準備で対応してまいりたいと考えております。

次に、5月1日に新天皇陛下がご即位されることを受けまして、記帳所を設置します。本市としては、新天皇陛下のご即位を記念しまして、市民の皆様が祝意を表する場として、5月1日、そして2日の9時から17時まで本庁舎及び浦和区役所を除く各区役所、全10カ所で記帳所を開設します。記帳所の開設につきましても、市報やホームページ等におきまして広く周知を図ってまいりたいと考えております。

次に、質問2つ目で、市長の公的・私的な予定についてでございます。4月29日の市スポーツ協会総合開会式・表彰式であるとか、5月3日に行われます大盆栽まつりの開会式、あるいは花と緑の祭典のオープニングセレモニー、5月4日のアグリフェスタのオープニングセレモニー、あるいはおおみや盆栽春まつりなどへの公務への出席も予定しておりますが、あわせて政務などもございます。また、休みについても多少とれますので、普段接する時間の短くなりました家族と過ごすことを中心にして、最近話題になっている場所などを見に行ったり、のんびり過ごしたいと思っております。

以上でございます。

○ 共同通信

ありがとうございます。

代表質問の説明に関して質問のある方は、マイクを使用して質問してください。

幹事社質問①に関する質問について

○ 時事通信

時事通信社と申します。

新元号、令和に伴って新しく結婚、婚姻届を出すときにイベントといい

ますか、特別にコーナーを設ける自治体もあると聞いているのですが、さいたま市としては特にやる話はないのでしょうか。

- 市長 現状としては、特別な窓口を用意することは考えていませんけれども、やはり新しい元号を用いられることとなる大変おめでたい日を迎えるに当たりまして、かなり市民の方が、結婚される方がお越しになる可能性があると考えております。区役所の夜間休日受付窓口において婚姻届などが多く出されることが想定されておりますので、各区において混乱のないよう対応するように、それぞれしっかりと準備をするように伝えているところです。いずれにしましても、通常よりはかなり多い婚姻届が提出されると思いますので、万全の体制で臨みたいと思います。

- 共同通信 そのほかいかがでしょうか。特にないようでしたら終わります。
それでは、そのほか質問がある方は質問してください。

その他：埼玉県知事選挙について

- 朝日新聞 朝日新聞です。
この夏にある知事選に関してお話をお伺いしたいと思います。今のところ現職の上田さんがまだ意向をはっきりと表明されておられません、知事選をめぐっては、多選自粛条例というのが県議会でありまして、その関係で多選批判ということも厳しくなっているのですけれども、今はまだ意思ははっきりされておりませんが、もし出られるということになった場合に、市長として、そういう自粛条例がある中で出馬されると、5選を目指すということについてどんなふう考えられるか、考えを聞かせてください。

- 市長 現時点で上田知事が今度の知事選に出場されるかどうか表明をされておられません、いずれにしても知事選ではそういったことも含めて、またこれからの埼玉県のあり方をどうするのかということ、きちんとそれぞれが政策を訴えていただき、いろいろ議論を闘わせながら、それを私たち県民がしっかりと選ぶと、そういう形になろうかと思います。総合的な判断は、やはり最終的には県民が投票によってするものだと考えております。

- 朝日新聞 条例があるということとないということは、現職である方にとってそれは全く足かせになることはないということでしょうか、あるなしにかかわらず。

○ 市長 それは、個々のそれぞれの政治家が判断すべきものであって、その判断がいいのかどうかということは、最終的には県民が決めるということが望ましいと思っています。

○ 朝日新聞 質問を少し変えます。清水市長も以前多選自粛条例を提出し、それが否決されたということで、市にはそういう条例はないわけなのですが、今振り返りまして、市長にとって、その条例を出したこと、あるいは今それが否決されて、ないということは、ご本人にとってそれはご自身としてすっかりしていることなのか、それともやっぱり多選条例はあったほうがよかったと思われますか。どちらでしょうか。

○ 市長 私の場合は、当選をしてすぐに多選自粛条例を議会に提出させていただきました。議会の中でさまざまな審議がなされ、最終的に議会の議決としては否決ということになりました。私自身もその結果を踏まえて、きちんとそれらの審議過程、ご意見なども踏まえながら考えてきたわけでありませぬ。基本的には私自身の政治的姿勢というか、考え方としては、やはり一人の政治家が過度に何期も首長を務めていくことは、どうしてもそれによって意思決定等々を含めて、弊害が起こり得る可能性があるということでそういった条例を出したわけでありませぬけれども、否決をされたという経過を踏まえて、私自身はそれぞれ選挙で選ばれる期間というのは4年間しかございませんので、4年間の中で達成すべきマニフェストやあるいは公約といったものをしっかりその4年間の中でやっていく、そしてその4年間を取り組んできた後にやるべきかどうかを考えて、決断をし、そしてその最終的なご判断は市民に仰ぐようにすべきだと今は考えております。

ただ、ベースとしては、その何期が多選かという議論は当然あると思いますし、必ずしも何期だと多選になるとは言いにくいところもありますけれども、やはりいろいろな弊害が起こりやすいということもありますので、そういった状況などを踏まえて、立候補するかどうかというのはその政治家が判断すべきことであろうと思っていますし、それがいいかどうかということについては、県民が選挙の中で判断することと思っています。

○ 産経新聞 産経新聞と申します。

今の知事選のお話で、今週の知事会見の中で上田知事は、前回の選挙で多選自粛条例、大差をつけて勝ったということで、決着済みという認識と

ということをおっしゃったのですけれども、これに関して市長のほうは、知事
の意見に同意するかどうかというところをちょっと教えてください。

- 市 長 4期目の選挙については、そういった条例がある中で知事が立候補されて、その4期目にやらなくてはいけない埼玉県としての政策、あるいはそれをどう進めていくかということを出して、最終的にその信任を得て、この4期目を過ごしてきたと。そこで当選をされて、その4年間実績を積んでこられたのだらうと思います。ですから、5期目もそういったことも含めて、5期目もし出るとすれば、5期目に何をしなくてはいけないのか、どういう思いでそれを実現していくのかということを経験的に判断されて、ご本人が出るかどうかというのは、その中で判断されるべきことだと思います。

そして、それを判断するのは、そういった条例がまだ残っているということも含めて、県民がまた5期目のときに、政策全体等々も含めて判断をし、投票していくということになると思います。

その他：動物愛護ふれあいセンター職員の不適切行為について

- 読売新聞 読売新聞と申します。
- 昨日会見もありましたけれども、動物愛護ふれあいセンターで職員による不適切行為がありました。これに関する市長の受けとめをお伺いできればと思います。
- 市 長 このたびの事案につきましては、市民からお預かりしている税金であるという認識が大変欠如していた事案であり、絶対あってはならないことだと感じております。市民の信頼を大きく失墜することになり、本当に誠に申しわけなく思っています。
- 現在、事実関係について調査中でございます。詳細については、まだお答えができませんけれども、調査を進め被害額を特定し、適切な対応をしていきたいと思っています。
- 読売新聞 すみません。追加なのですけれども、今回無施錠の机から、印鑑が無断で使われていたと。それが原因になっていたかと思うのですけれども、そこに関して再発防止などお考えいかがでしょうか。
- 市 長 個人の印鑑を机から持ち出して、印鑑を押しているという行為があった

とすれば、まずやはり個人印の管理を厳重にしていくということと、あわせて、これは当然公務員であっても、誰であっても、人の印鑑を勝手に持ち出して使うということは、決して許されることではありませんので、改めてそういった綱紀について、私たちとしてもしっかり職員一人ひとりに呼びかけ、また周知徹底していきたいと思っております。

○ 埼玉新聞

埼玉新聞と申します。

関連して、今その動物愛護ふれあいセンターの件なのですが、今回印鑑を勝手に使って支払命令書を偽造していたということなのですが、支払命令書といえば、2014年に南部建設事務所の職員が官製談合防止法違反で逮捕される事件がありまして、市役所の職員が逮捕される事件がありまして、その際に市長は、市民の信頼は一瞬にして崩れるが、それを取り戻すのは非常に大変だということを何度も何度も繰り返しおっしゃっていました。まだこの記憶を持っていらっしゃる方もいると思うのですが、そういった中でこういった事件が発生することにつきまして、市長の受けとめ、今後の対応についてどうしていきたいという方向みたいなものがございましたら、教えていただけますでしょうか。

○ 市長

いずれにしても、これは本当にあってはならないことだと思っております。市民からお預かりしている貴重な税金を私たちは活用して日々行政を行っております。それをきちっとしたプロセスを経ずに、また勝手に印鑑を押して、使うということは、これは本当にあってはならないことだと思っております。

改めて、これは再発防止について徹底的に取り組んでいくとともに、こうしたことが起こらないように、これは意識の部分も含めて徹底していきたいと思っております。

その他：学習支援事業について

○ 毎日新聞

毎日新聞と申します。よろしくお願いたします。

前回の会見でも伺ったのですが、さいたま市の生活困窮世帯のお子様向けの学習支援事業が、業者さんの急な変更によって、ちょっと混乱が生じているということで、前回の会見では市長が詳細を把握されていないということだったので、今回教室の開始時期が、5月の連休明けにずれ込むという事態になっております。これについて市長の受けとめ

と、今後の対応についてお聞かせください。

○ 市長

まず、このさいたま市における学習支援事業については、学業や進学
の環境が十分でない生活困窮世帯の子供たちが成長し、そのことによって
大人になっても就労等の自立が困難にならないように、再び生活が困窮し
ないようにと、その連鎖を防止するという意味で、これまでまさに全国に先
駆けてさいたま市としては取り組んできた事業であります。

生徒が卒業、進学するために必要な基礎的な学力をしっかりと身につ
けることであったり、あるいはこの学習習慣の定着をしていただくことであ
ったり、社会的に孤立をしないように良好な人間関係を構築していくため
の居場所づくり支援なども含めた事業だと認識をしております、さいた
ま市にとっても、これまでも大変重要な事業として進めてきたものであり
ます。

それが、今回の新たな契約方式によって、スタート時に非常に混乱をし
たという状況がございました。これについては子供たち、こちらに来てい
ただいているお子様や、あるいは送り出している保護者の皆様
方にも大変ご心配とご迷惑をおかけしたと思っております。心からお詫び
申し上げたいと思います。

また、特に受験生にとっては、この4月あるいは5月というのは大変重
要な時期だと認識しております。こういった時期に、こういった混乱を招
いたということは、本当に申しわけない思いでいっぱいです。

今後、速やかに事業が行われるように、またその事業が本来の目的に沿
ってしっかりと行われるように、私たちとしてもしっかりとフォローアッ
プをしていきたいと考えております。

○ 毎日新聞

ありがとうございます。

もう一点、今回契約方式が、今までは随意契約かプロポーザルだったも
のが一般競争入札に変更になったという、そして事業者が変更になったと
いう点と、それと業者、新年度のスタートまで2週間しか時間がないとい
う中で、かなりはたから見ている、11教室、今年から13になりますが、
ある中で、このスケジュールで先生も総入れかえするというのは無理
なスケジュールであったのは目に見えていることなのですけれども、今後
こういったことが起こらないような対応として、その入札の時期ですとか

方法について、何か今後検討されるようなご予定はありますか。

- 市長 今の記者さんからもご指摘のあったとおり、恐らくこのままこういった形の入札制度でやるとすれば、3月に予算が通ったタイミングでやっているのだと思いますが、それで新たに準備をして教室が始まることを考えると、先ほど申し上げたとおり4月、5月というのは、子供たちにとっても大変大切な時期だと私たちも考えておりますので、その時期は、本当に今のこの時期でいいのかどうか、あるいはその入札方法についても、これで本当によかったのかどうかということも含めて、今後これからいろいろ検証しながら、検討していかなくてはいけないと思っております。

- 毎日新聞 ありがとうございます。

すみません。最後の入札方法が本当によかったのかというのは、この事業の性質上、一般競争入札が適切だったかという意味で捉えてよろしいですか。

- 市長 そういったことも含めてということになると思います。

- 毎日新聞 事業の内容、企画内容を問わない方式でよかったのかということ。

- 市長 要するに本来の事業の趣旨に照らして、より適切な方法だったのかということについては、今後の動向なども含めてしっかりと検証し、そして検討していくべきものだと思います。

- 毎日新聞 わかりました。現段階では、まだ適切だったかどうかの判断は、今後の事業を見てからということですね。

- 市長 そうです。

その他：自動車の安全運転について

- 埼玉新聞 埼玉新聞です。

市外のことになるのですがけれども、自動車の安全な運転についてお伺いできればと思います。先週19日に、東京池袋で87歳の男性が運転する車が、3歳の女の子とお母さんが乗った自転車をはねてお二人が亡くなり、10人以上がけがをするという大変な事故がありました。

高齢者の運転と免許の返納ですとか、いろいろ問題が取り沙汰されていますが、この事件について、市長何かお考えございましたら教えていただけますでしょうか。

- 市長 このところ、数件こういった事故が続いているということについては、

大変残念でなりません。

高齢化時代を迎えて、これまでよりは、確かに皆さん肉体的にも精神的にも、若くなっていると思いますけれども、ただ、運転ができるかということについては、やはり客観的に、また適切に判断をしていかなければならないと思っております。

そんな中で、こういった事故が起こったということは、この事故の被害に遭われた方はもちろんですが、10名近くの方が死亡されたり、大きなけがをされたりということでもありますから、本当にこれについては悲しいことであり、二度とこうしたことがないように努めていかなければならないと考えています。また、あわせて事故を起こした方々にとっても、運転をやめる、運転免許を返納していくという決断が、非常に重要な鍵を握っているのだらうと思っております。

私たちとしても、できるだけ免許を返納した後も移動しやすい環境をつくることを、改めてしっかりとやっていかなければいけないと思っておりますし、そういう判断がしやすい環境づくりを私たちとしても取り組まなければいけないと思っております。

いずれにしても、こうした本当に悲しい事故が起こらないように、私たちとしても全力で、適切にそういった高齢の方々が運転を続けていくのかどうか、免許をいつのタイミングで返していくのかということができやすい環境を、私たちとしても取り組んでいきたいと思っております。

- 埼玉新聞 その件に関してなのですが、免許を返納すると運転経歴証明書が警察から発行されて、公共機関が乗りやすくなるとか、そういう特典があったかと思われるんですが、さいたま市内ではそのあたりはどういうふうになっていますでしょうか。

- 市長 そこは後ほど。(会見後資料提供:埼玉県シルバーサポート制度のご案内、高齢者等の移動支援モデル事業の概要)

その他：東日本連携（3都市）訪問について

- 時事通信 時事通信社です。
先週東日本連携の関係で、福島県の会津若松市だったり、長野県上田市のほうを訪問されたかと思うのですが、その中で各市長とお会いされて、何か決まったことがありましたらお答えいただけたらと思います。

○ 市 長

まず、上田市については、次の連携創生フォーラムへの参加、あるいは「BIZ SAITAMA」への参加なども要請してきたところですが、上田市にあります信州大学の繊維学部を見せていただきました。ここは、新しい産学の連携であったり、全国で唯一の繊維学部ということで、私たちもこの繊維という概念が、これまで洋服であるとか、特定の概念しかなかったのですけれども、これが今や車のボディーであったり、いろいろなものに活用されているという状況を目の当たりにしてきて、今後その産業の新しいイノベーションの可能性をたくさん感じてきました。東日本連携センターでのいろいろな取り組みもそうですけれども、やはり「BIZ SAITAMA」を含めて、さいたま市のいろいろなものづくりの企業、あるいは研究機関ともさらに連携して、このビジネスの種がまだまだあるなという感じをしておりますので、そういったことも含めて、今後協議をしながら進めていければと思っております。

佐久市については、これまでも健康長寿のまちづくりなどでシンポジウムに出させていただいたり、いろいろな機会で見聞交換をさせていただいたり、市長さんたちともそんな関係であったわけでありまして、やはり佐久市からも非常に新幹線を通じると大宮まで近いという環境もあって、改めて佐久市長さんも、この東日本連携についてかなり興味を持っていただきました。

そして、先ほど言いましたけど、上田市と佐久市と東信州という、あと4つぐらいの市や町が組んで、長野県内でそういった取り組みをやっているということもお伺いしましたので、そういったところも含めて、今後東日本連携の可能性について検討していきたいというお話をいただいたところでもございます。

それから、会津若松市についてでございますが、会津若松は4月8、9日において「寄ってがんしょ！会津茶屋」というイベントを早速開催していただきました。また、昨年から大変頻繁に、さいたま市にも市長さん自らお越しになって、いろいろな機会でご会津若松のPRをしていただいております。

今後で言うと、5月29日の鉄道ふれあいフェアにも出店いただきますし、また7月13日、14日には、あいつ伝統工芸フェアを秋に開催でき

るそうなのですが、さいたま市でそのプロモーション的なことをやりたいというようなお話がございました。

またあわせて、会津若松市には、会津大学というコンピューターに特化した大学がございます。そういったコンピューターに特化した学部としては、日本でも最大級の大学だとお聞きをしました。ここで今、会津若松市と会津大学とで、まさにスマートシティ会津モデルでいろいろな取り組みをやられていて、私たちも今、浦和美園を中心にやっておりますスマートシティさいたまモデルの、部分的には先を行っている取り組みなども結構会津ではやられていて、これは大変参考になりましたし、これから私たちとしては、そういうスマートシティづくりについても、会津若松市や、あるいは会津大学ともっと連携ができるんじゃないかということで大学の方々ともお話をさせていただきまして、今後さらにさいたま市が進めているスマートシティさいたまモデルへのご協力もいただけるという、そんなお約束ができたかなと思っております。

いずれにしても、今回行った3地区、それぞれ違った個性、特性があるので、それぞれの分野で、私たちと連携ができるところをこれまで以上に認識をすることができましたので、そういったところも含めて、さらに個々での連携の強化。それからもう一つは、やはりオリンピック・パラリンピックが来年ありますので、その中で東日本のこういった連携している地域に、ぜひサッカー、あるいはバスケットボールでさいたま市にご来場いただいた方々を、ぜひつなげていきたいと改めて認識をしたところであり、またそこについてもいろいろ意見交換をさせていただいてきたところでもあります。

その他：市議会5月臨時会について

○ 朝日新聞

朝日新聞です。

連休明けには、市議会が再開されます。新しい会派による市議会になりますが、ほぼ今のところ大きな会派構成に違いはないということではあるのですが、議長の人事をめぐる、前回もいろいろと紛糾した経緯ということを知っておりますけれども、そうした議会運営について、議長人事をはじめ市長はどのようなことを望まれるのでしょうか。

○ 市長

議会内の人事については、私は特段申し上げるべきことはございません

けれども、いずれにしましても4月の選挙で、これまでどおり継続して議員として務められる方もいらっしゃいますし、また新しく議員になられた方もいらっしゃいます。

いずれにしても、さいたま市にとってはまさに運命の10年と言われる、この運命の岐路に立っているような、大切な時期だと思っておりますので、その中で、それが議会の中で適切に議論され、そしてさいたま市の発展や市民の幸福につなげられるような、そういった議会と執行部との関係でありたいと思っておりますし、またそういった議論がしっかりとできる議会に、ぜひしていただきたいと思っております。

○ 共同通信 そのほかいかがでしょうか。

どうもありがとうございました。以上をもちまして本日の記者からの質問を終了させていただきます。

○ 進 行 以上をもちまして市長定例記者会見を終了させていただきます。

なお、次回の開催は5月16日木曜日、13時30分からを予定しております。本日はありがとうございました。

午後2時19分閉会

※この議事録は、明らかな言い直し、重複した言葉遣い、話し言葉などを読み易く整理したものを掲載しています。なお、会見後追加・訂正・補足等された文言等については（ ）とし、下線を付しています。